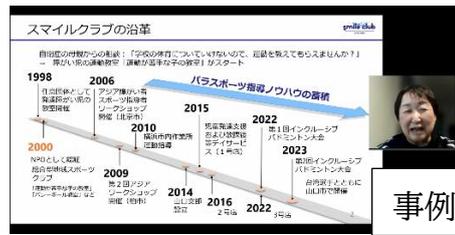


さわやかちば県民プラザ主催事業等実施報告

実施日	令和8年2月26日(木)		
事業名	生涯学習・社会教育実践研究交流会		
趣旨	地域における生涯学習・社会教育の中核を担う社会教育主事等及びNPOや地域の社会教育関係団体関係者等、各市町村教育行政関係者等が一堂に会し、講演や実践発表、情報交換を行うことにより、参加者の資質向上や分野を問わない横の連携の構築を図る。		
会場	オンライン開催(Zoom)		
対象	生涯学習・社会教育に関わっている方や興味のある方 社会教育主事、社会教育士、社会教育主事有資格者、NPO等関係者、 社会教育関係団体関係者、社会教育・生涯学習担当職員、学校関係者 等		
申込方法	Web 申込		
募集定員	50名	募集期間	令和7年12月2日から令和8年2月12日
参加者数	37名(参加者 34名、講師3名)	参加費用	無料
講師等	<p>【基調講演】 文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 専門調査員 佐野 純也 氏</p> <p>【事例発表】 ①NPO 法人 スマイルクラブ 理事長 大浜 あつ子 氏 ②多古町企画政策課 宮本 晶 氏</p>		
実施内容	<p>内容:ウェルビーイングの向上～持続可能な地域づくりと生涯学習～ 日程:午後12時55分～午後1時 オリエンテーション 午後1時 ～午後2時 基調講演 午後2時5分 ～午後3時05分 事例発表 午後3時5分 ～午後4時15分 参加者同士の交流会 午後4時15分 ～午後4時30分 諸連絡、閉演</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>基調講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>事例発表①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>事例発表②</p> </div> </div>		

<p>参加者 アンケート</p>	<p>【基調講演:満足度94%】</p> <p>○現在の生涯学習・社会教育の動向を、要点整理された話で知ることができて、とても有意義だった。ウェルビーイングの循環を図式化されていたことで、生涯学習・社会教育の推進がその循環にもたらす役割として必要不可欠ということがよくわかりました。</p> <p>○最新の国の情報について、自分で読み取り、理解するのは大変なので、かみ砕いて話をしてくださったので助かりました。</p> <p>【事例発表:満足度94%】</p> <p>○営利でも税収でもないお金のルートで苦しいところを赤裸々に共有していただき、今後の参考となった。</p> <p>○スマイルさん、需要と供給がマッチした事業展開、素晴らしい。多古町のまちおこしも励みになりました。</p> <p>○スマイルクラブの活動は、近隣で行っているのに全く知らないプロジェクトであり、改めて自分の無知さを実感するとともに、とても魅力的な活動だと感じました。地域おこしの協力隊の活動も、知らないなりに調べながら聞いていましたが、とても実践的な活動を行っており、こちらもすごい魅力を感じました。どちらの活動も、もっと魅力が広く伝わっていくと良いなと思いました。</p> <p>【交流会:満足度100%】</p> <p>○参集での開催もご検討ください。</p> <p>○あっという間に終わってしまうくらい、盛り上がりました。生涯学習・社会教育実践に取り組む人たちは、話もオープンなのですぐに打ち解けました。</p> <p>○交流会の2回目は近隣市の方では地域性もわかり年齢や経験は違ったけどすぐに話げできた。</p> <p>○近隣の地域で活動されている方と交流できてよかったです。</p> <p>○社会教育に携わっていらっしゃる方のお話は、間違いなく興味深いです。この人財を活かさない手はないです。</p> <p>○偏りなく交流できるようにファシリテーターのような方がいた方がよい気もしました。</p>
<p>担当者の 所感</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の趣旨である「講演や実践発表、情報交換を行うことにより、参加者の資質向上や分野を問わない横の連携の構築を図る。」については、「ウェルビーイング」および「地域づくり」をテーマに基調講演、事例発表、交流会とスムーズな流れで展開することができ、参加者からは高い満足度を得られた。 ・交流会については、スポーツ、地域おこし等の分野別の交流と所属や団体を問わない地域ごとの交流に分けることで、参加者同士の連携促進の一助となった。 ・事前にメールで交流内容を周知し、参加者の活動状況等を回答していただいたことで、途中退出者は昨年度より減少した。 ・連携の構築については、事後に受講者同士の連絡先交換においてパイプ役を担ったことで、横の連携の構築をより支援できた。

【課題・今後の方向性】

- ・交流会については、申込時に受講者の活動状況などをより詳細に把握し、本事業の趣旨を実現できるような最適なグループ編成を行うことが課題である。
- ・開催形式については、対面開催を望む声があることから、ハイブリット開催も視野に入れて開催方法について検討する必要がある。
- ・周知方法については、メールの告知のみでは行政機関の担当者への周知が十分でない場合があり、電話で補足連絡を行った。チラシ配架を減らして参加者を増やすことはできたが、今後はより効率的な周知方法を検討していく必要がある。